

第1部 基調講演「自分らしく生きる～自己実現の居場所づくり」

後藤 純氏(東海大学 建築都市学部 准教授)

自分らしく生きるために

- ・人生の先輩(高齢者)が「長生きしたい」と言えるまちをつくるために、行政に頼るだけでなく、重層的、多様な支え合いが必要。
- ・楽しく生きるためには、「いかにフレイルになる年齢を先延ばしするか」、「フレイルになっても安心して生活できる社会をいかに創るか」の2点が重要。

フレイルにならないために

- ・フレイルのリスクを減らすためには、社会的な役割を持ち、社会に参画することが大事。
- ・社会に参画するためには、参画するための空間が必要である。参画しやすくなる空間を作るための方策を多層で考えることが必要。

在宅を基本に地域で包括ケアを

- ・国は在宅医療を優先しているため、医療の充実の他、地域内での助け合いが必要となる。その点を踏まえ、新たな仕組みを考える必要がある。
- ・高齢者が元気に街中に住み続け、自分らしい楽しみにお金を使い、地域に還元していくことは、地域に貢献し、若い人の潤いにも繋がる。



高齢者に優しい都市を作るために

- ・地域の課題を背負い、「みんなで」をキーワードにコミュニティを組織し活動した「まちづくり第1世代」、「ネットワーク」をキーワードに、NPOやサークルを結成し、活動した「まちづくり第2世代」、自分の才能で、自分たちでサークルを作り、自分の好きなことに取り組む「まちづくり第3世代」を繋げて共に進むことが大切。
- ・そのためには、地域の課題を自分事化し、地域ごとにワークショップを行い、課題の解決に向け自分たちで考えることが求められる。

第2部 パネルディスカッション「支えあう地域づくり～今、私たちに求められること」

横内連合自治会 会長 小宮 保 氏

- ・横内地区は団体間の繋がりが強いが、町内福祉村の設立時には個人的にボランティアで関われる人を公募した。
- ・最近では、納涼祭の模擬店に中学生が、子ども大会にイベント司会として高校生がそれぞれ参加しており、その数も増えつつある。
- ・横内地区の将来を語る「まちづくりを考える会」は、世代に囚われず、個人参加を募り実施している。

花水地区町内福祉村 会長 宮田 憲二 氏

- ・「健康寿命を延ばす」をテーマに、自分たちが楽しい活動をする事を考えながら、「人」と「人」との繋がりづくりに取り組んでいる。
- ・学習支援を通じた「子どもの居場所づくり」や花水わくわく教室の開催等を始めとした「多世代交流の活動」を行っている。
- ・花水小学校と連携し、1年生を対象とした「昔あそび」を開催している。

ひばり野のなかま達 高橋 亜衣子 氏

- ・高齢者と子供の関わり、繋がりを深めるため、子ども、保護者、ボランティアそれぞれの居場所づくりを目指した。
- ・活動を継続していくために関わってくれる人の気持ちを尊重するようにしている。
- ・活動を継続するに当たっては、ルール作りから考えず、「目的達成のために誰が何をするのか」から考えるようにしている。

平塚市社会福祉協議会 山崎 菜央 氏

- ・楽しい場には自然と人が集まるが、若い世代は他人に関心が無い人も多く、アプローチが難しい。
- ・地域・他人との関係性が希薄でも生きていける時代であるため、若い世代は、周りと繋がらなくても生きていけると思いがちである。
- ・「ゆりのきオレンジカフェ」は、参加者が楽しいと思える場づくりを目指して開催している。